

見直し日：2015/03/13 改訂有無：有

# 安全データシート

整理番号：NM-6601-090  
 制定：2006年05月24日  
 改訂：2015年03月13日  
 確認：

## 1. 製品及び会社情報

製品名：A d B l u e (尿素水)

会社名：日本化成株式会社  
 住所：〒104-0033 東京都中央区新川1-8-8  
 担当部門：無機化学品事業部  
 担当グループ：無機化学品グループ  
 電話番号：03-5540-5971  
 FAX番号・電子メールアドレス：03-5540-5898  
 緊急連絡先・電話番号：日本化成(株) 無機化学品事業部 無機化学品グループ  
 03-5540-5971

推奨用途及び使用上の制限：

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類：物理化学的性質

爆発物	分類対象外
可燃性／引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類できない
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性—経口	区分外
急性毒性—経皮	分類できない
急性毒性—吸入 (気体)	分類できない
急性毒性—吸入 (蒸気)	分類できない
急性毒性—吸入 (粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分外
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分外 (経口)
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水性環境有害性 (急性)	区分外
--------------	-----

水性環境有害性（長期間） オゾン層への有害性	区分外 分類できない
ラベル要素 絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	GHS分類区分は付与されないが、取り扱い時には以下の点に注意する。
【安全対策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用する。</li> <li>・ 取り扱い後は、よく手を洗うこと。</li> </ul>
【応急措置】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲み込んだ場合 口をすすぐこと。 気分が悪いときは、医師の診断を受けること。</li> <li>・ 皮膚に付着した場合 多量の水で洗うこと。</li> <li>・ 目に入った場合 少なくとも15分間は、多量の清浄な流水で洗眼する。 目に刺激がある場合は、医師の診断を受けること。</li> <li>・ 呼吸に関する症状がでた場合は、医師の診断を受けること。</li> </ul>
【保管】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直射日光の当たらない冷暗所に保管すること。</li> </ul> <p>加水分解又は加熱により有害なアンモニアガスを発生する恐れがある。 ：閉鎖性水域で水質の富栄養化をもたらす。生分解性良好な物質である。 魚毒性は低い。</p>

： 不燃物である。  
： 分類基準に該当しない

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物  
 化学名： 尿素水溶液  
 成分及び含有量： 尿素：31.8～33.3%  
                           水：66.7～68.2%  
 化学式又は構造式： (NH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>CO  
 官報公示整理番号：  
                           (化審法) (2)-1732  
                           (安衛法) (2)-1732  
 CAS No.              : 57-13-6, 7732-18-5

### 4. 応急措置

吸入した場合              : ミストを吸引した場合、新鮮な空気のある場所に移動し、水で十分なうがいを行い、安静にする。  
 皮膚に付着した場合      : 水で十分に洗い流す。  
 目に入った場合          : 少なくとも15分間は、多量の清浄な流水で洗眼する。  
 飲み込んだ場合          : まず、コップ2杯の水を飲ませ内容物を吐かせ、様子を見る。状況に応じて医師の診断を受ける。

## 5. 火災時の措置

消火剤	:	水 粉末消火剤、二酸化炭素、泡薬剤
火災時の特定危険有害性	:	加熱分解したガスは、有害なアンモニアガスを含有するので、大量の水又は適切な消火剤を用いて消火する。
周辺火災の場合	:	周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。火災にさらされると濃縮され、結晶が析出し、熱により分解が起こり、燃焼ガスにはアンモニア等の有害ガスが含まれているので、容器を冷却し分解を抑制する。
消火を行う者の保護	:	消火活動は風上から行い、必要に応じて呼吸用保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	ゴム手袋、保護眼鏡を着用して作業する。
環境に対する注意事項	:	排水が河川等に排出されないように注意する。
除去方法	:	土のう等で囲いをし、流出防止を図り、可能な限り回収する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

技術的対策	:	必要に応じて適切な保護具（保護眼鏡、ゴム手袋等）を着用する。
安全取扱い注意事項	:	特記事項なし
適切な保管条件	:	できるだけ直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管し、容器またはタンクに貯蔵する。
安全な容器包装材料	:	可能であれば、流出防止装置を設けた場所に保管する。 ポリエチ容器

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	:	特記事項なし
管理濃度	:	設定されていない。
保護具	:	
目の保護具	:	取り扱いには保護眼鏡・保護面を着用する。
手の保護具	:	耐油性（不浸透性）の手袋を着用する。
皮膚及び身体の保護具	:	ゴム長靴

## 9. 物理及び化学的性質

物理的状態	:	
形状	:	液体
色	:	無色透明
臭い	:	本製品は若干アンモニア臭がする場合がありますが、アンモニアは有効成分です。
物理的状態が変化する温度	:	
融点・凝固点	:	-11℃ (32.5%)
沸点	:	103℃ (32.5%)
比重（相対密度）	:	1.09 (20℃)
溶解度	:	水に可溶

## 10. 安定性及び反応性

安定性・反応性	:	発火性：なし 可燃性：なし 酸化性：なし 加水分解するとアンモニアガスを発生。加熱すると160℃付近でアンモニアガスを発生し、シアン酸アンモニウムに変化する。
混触危険物質	:	強酸化剤と反応すると火災・爆発の危険性があります。強酸化剤との混触は避けてください。 強酸化剤、過塩素酸塩、亜塩素酸塩、亜硫酸塩、無機塩化物等と

危険有害な分解生成物 : 激しく反応しますので混触は避けてください。  
窒素酸化物、アンモニア

## 1.1. 有害性情報

急性毒性 : 急性毒性（経口） :  $LD50 = 14300 \text{ mg/kg} * (67/33) = 29000 \text{ mg/kg}$   
急性毒性（経皮） : データが不十分。  
急性毒性（吸入：ガス） : データなし  
急性毒性（吸入：蒸気） : データなし  
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） : データなし

皮膚腐食性・刺激性 : ウサギ皮膚に20時間半閉塞適用により「刺激性なし」と評価されている。

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ウサギの試験で、適用24時間後「刺激性なし」と評価されている。

呼吸器感受性又は皮膚感受性 : 呼吸器感受性 : データなし。  
皮膚感受性 : ヒトの皮膚に尿素10%水溶液適用した試験において、「感受性なし」と評価されている。

生殖細胞変異原性 : マウスの骨髄細胞を用いた染色体異常試験（体細胞を用いる in vivo 変異原性試験）。高用量のみの試験。で陽性であり、分類にはデータが不十分である。

発がん性 : ラットまたはマウスの経口投与による慢性毒性・発がん性スクリーニング試験で、いずれの動物種とも腫瘍発生頻度の増加は認められていない。

生殖毒性  
その他 : データが不十分。  
尿素（固体）としてのデータを示す。

急性毒性 :  
経口      ラット      LD50      8471mg/kg      1)  
            マウス      LD50      11 g/kg

局所効果（皮膚、眼など） :  
皮膚      ヒト      22mg/3D（断続的）（軽度）      1)

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : データが不十分。  
特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : ラットおよびマウスの12ヶ月経口投与による慢性毒性・発がん性スクリーニング試験で、NOAEL =  $2250 * (67/33) = 4570 \text{ mg/kgbw/day}$ （ラット）、 $6750 * (67/33) = 13710 \text{ mg/kg/day}$ （マウス）。

## 1.2. 環境影響情報

生体毒性  
その他 : 水生環境有害性（急性）  
魚類慢性毒性 : テラピア (Tilapia mossambica)  
 $LC50(96hr) = 22500 \text{ mg/L} * (67/33) = 45700 \text{ mg/L}$   
甲殻類急性毒性 : オオミジンコ (Daphnia magna)  
 $EC50(24hr) > 10000 \text{ mg/L}$   
藻類急性毒性 : 藻類 (Scenedesmus quadricauda) Toxicity threshold(192hr) > 10000 mg/L  
水生環境有害性（長期間）  
魚類慢性毒性、甲殻類慢性毒性、藻類慢性毒性、全て 急性毒性区分+水溶解度  $\geq 1 \text{ mg/L}$   
オゾン層への有害性 : データなし。GHS分類できない。

## 1.3. 廃棄上の注意

本製品を湖沼、海域、河川等へ廃棄しないで下さい。  
廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、適切に処理して下さい。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	: 国連の定義上、危険物に該当しない
国連番号	: なし
輸送の特定の安全対策及び条件	: 取り扱い及び保管上の注意の項の記載に注意し、適切な容器、ローリーにて輸送する。海洋汚染防止法：ばら積み運送 における有害でない物質に該当

## 15. 適用法令

高圧ガス保安法	: 該当しない。
消防法	: 該当しない。
労働安全衛生法	: 該当しない。
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 (Z類物質) 【尿素溶液】
毒物及び劇物取締法	: 該当しない。
化学物質管理促進法	: 該当しない。

## 16. その他

記載内容の問い合わせ先	: 日本化成 (株) 無機化学品事業部
引用文献等	: 1) JETOC (日本化学物質安全・情報センター) データベース GHS分類 (尿素) 2) 化学便覧基礎編 改訂4版 日本化学会編、丸善、1993、 3) NITE (製品評価技術基盤機構) 総合検索
コメント	: 記載内容は現時点で入手できた資料や情報にもとづいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。